

獨湛立

逸然

The image shows a vertical calligraphy piece. On the right side, the characters '後後不為玄' are written in a large, bold, black cursive script. To the left of this main text, there is a vertical inscription in a smaller black cursive script: '所有與我同行者' on the top line and '黃檗惟一寶敬書' on the bottom line. Below the bottom line of the inscription is a square red seal. To the right of the main text, there is another vertical inscription: '古無本元', also in a black cursive script, with a square red seal below it. The background of the entire piece is a light brown color.

留得生如夢

A vertical scroll painting of a seated Buddhist figure, likely a Bodhisattva, wearing a red robe and a crown, seated on a lotus flower. The figure is surrounded by a light blue aura. Above the figure, there is vertical calligraphy in Chinese characters, and to the left, there is a signature and a red seal.

木庵

花近高樓傷客心
萬方多難此登臨
錦江春色來入眼
王師北定中原日
此物朝在殊山改
西山一色蒼茫無依
可憐後主遜祖廟
日暮鄉情深更愁
吹笛秋山風月清誰
家仍作對陽秋
風飄得呂相如切
風飄閑山水空流

雨詩中宵始此差
武陵一曲更何征
雨窗傷初久難捱
何得愁中暫解生

東閣官長輕於母
如何避在陽何生

驚雷遙在天遲遲
長可自由半太易

歲暮苦為春云亂
愁江邊一橋未盡

朝夕懷人自知泣
綠林詩三首

長崎歴史文化博物館 2階歴史文化展示ゾーン 特集

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号

2019年

5月22日(水)～7月15日(月祝)

8時30分～19時（最終入館30分前）※6月17日は休館

観覧料 大人600円(480円) 小中高生300円(240円)
※常設展観覧料込 ※長崎県内の小中学生無料、○は15名以上の団体料金
※障がい者手帳(身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳)保持者及び介護者1名無料

特集展示

渡來書の題

高 東 泉

悅山

The image shows a large blue poster with white text. On the left side, the characters '即此' (Jizhi) are written vertically. On the right side, the characters '大眉' (Damei) are written vertically. At the bottom, there is a horizontal calligraphic banner with the characters '惟一' (Weiyi) written in a bold, expressive style. Below this banner, there is a smaller, less distinct calligraphic text.

道得百便解
脫一日清闲一
日便受用一日
中秋前
苏轼书

卧游居

于

朱朝元



長崎歷史文化博物館

（上段左から）獨湛性墨画賛《积迦如来图》、惟一道實筆《所有與我同行者》、木庵性培筆《縱橫不是塵》、隱

隠木即 黄檗の三筆

江戸時代、承応三年（一六五四）に明末の中国から長崎へ渡來した隠元隆琦（一五九二～一六七三）は、黄檗の禅の教えのほかにも多くの文化を日本へもたらしました。堂々とした書もそのひとつです。隠元と、その後に続いて長崎へ渡った木庵性瑫（一六一～一六八四）、即非如一（一六一六～一六七一）の三人は能書家としても名をはせ「黄檗の三筆」と称されます。三人の書は日本で珍重され、大変な人気を博しました。こうした黄檗僧たちの渡來により、中国の書風、いわゆる唐様の書が江戸時代に隆盛を誇るようになります。本展では、そんな「黄檗の三筆」がしたためた墨蹟をはじめ、中国から長崎へ渡來した黄檗僧の書を特集します。

「黄檗の書」や「唐様」と言うものの、その書体や書風は共通したものではなく、むしろ各人の個性がよく表れています。例えば、隠元が記した一行書「胸流太古春」は太く力強い筆でありつつも全体に丸みがあり、やわらかく均整のとれた書です。対して木庵の一行書「縱横不是塵」はスピード感が伝わってくる筆運びとなっています。即非は楷行草すべてに優れ、多くの墨蹟をのこしました。「醒語」は小品ながら、流麗な筆致が素晴らしい一作として知られており、最後に「臥遊居」と記されていることから、長崎の崇福寺の末庵で書かれたものであることが分かります。

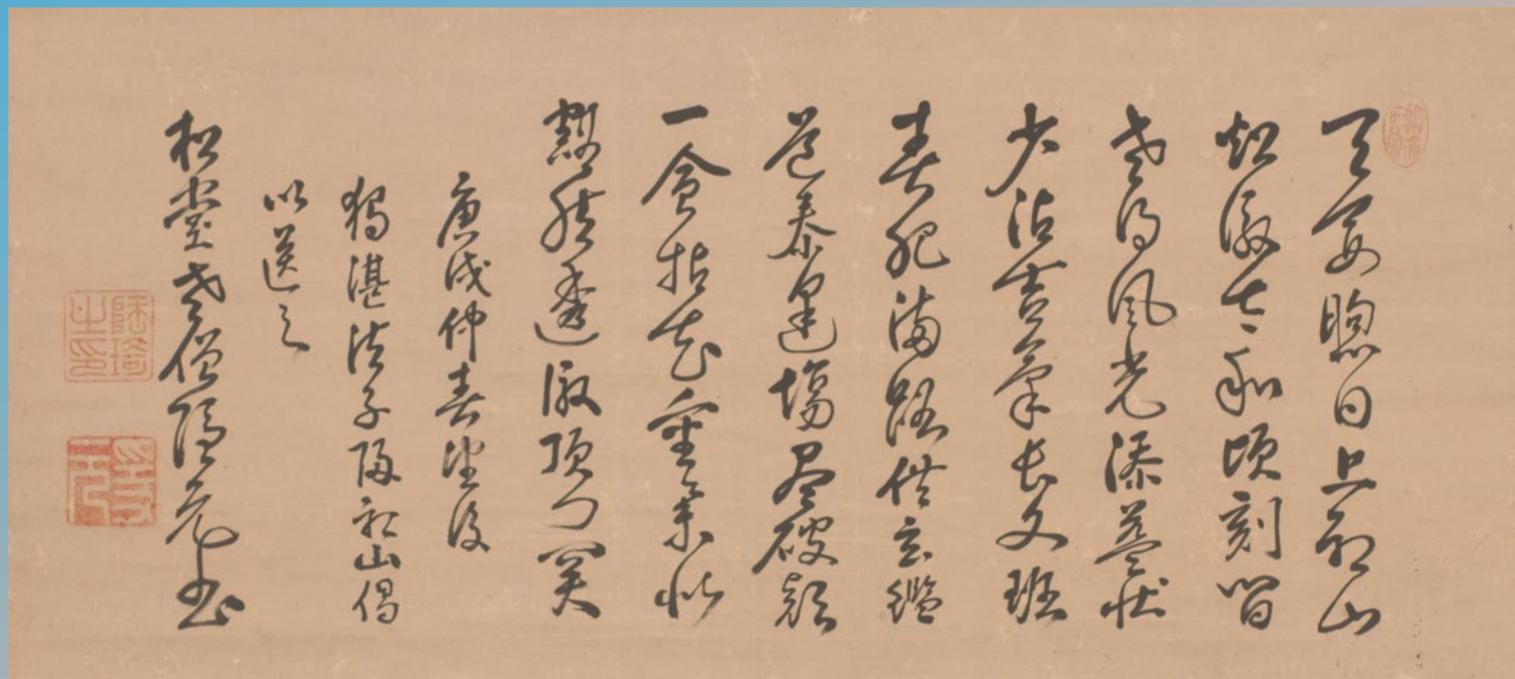
墨蹟をのこしたのは「黄檗の三筆」に限りません。本展では隠元より先駆けて来日し、日本の書と篆刻に多大な影響を与えた独立性易や、隠元渡來以降に日本へ渡った黄檗僧の書もあわせて紹介します。

また、渡來黄檗僧の中には書だけでなく、絵を得意とした人々もいました。隠元を長崎へ招請した来舶明人である逸然性融（一六〇一～一六六八）は晩年になって本格的に画を描きはじめ、唐絵の祖としてその後の日本の絵画に大きな影響を与えています。更に隠元に随つて来日した獨湛性瑩（一六二八～一七〇六）は独特な筆で多くの絵を描いており、最近人気を得つつある、白隠や千崖といったユーモアあふれる禅画の先駆けとも言える存在です。



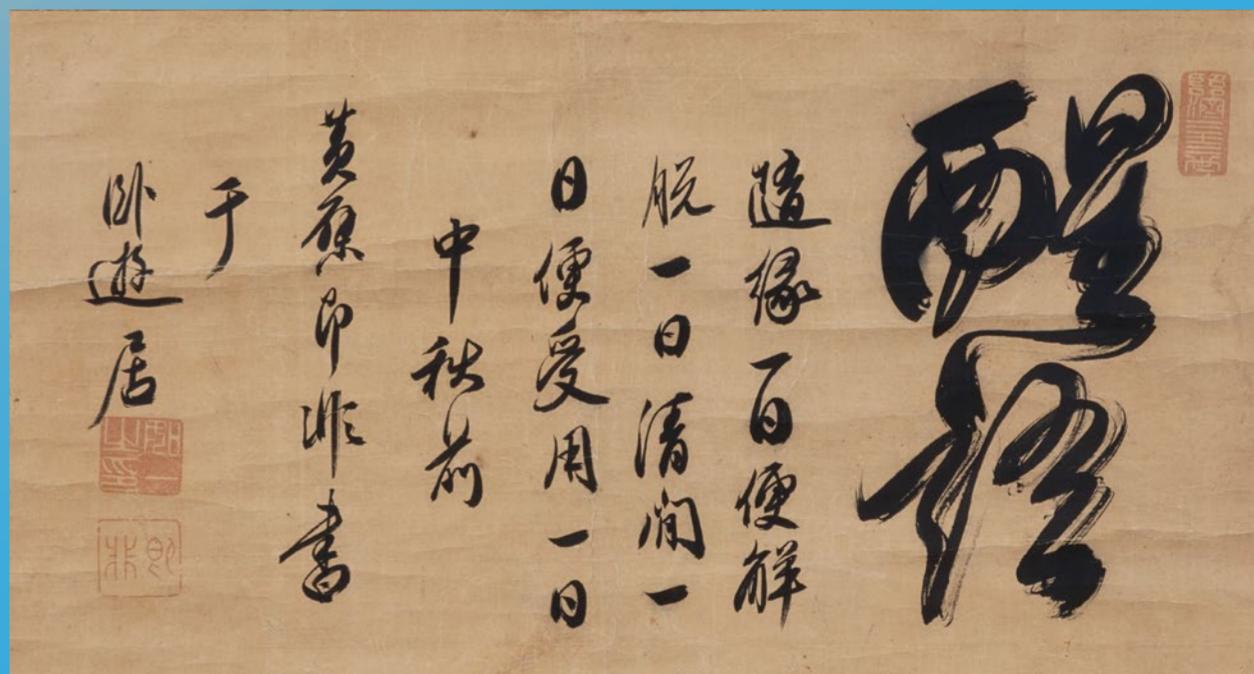
逸然性融画・隠元隆琦贊《寿老人図》

隠元の贊中に「南極老人」とある。南極老人とは南極老人星（カノープス）を神格化したもので、寿老人や福禄寿のモデルとされる。道教と仏教の関係を示す作品。



隠元隆琦筆《獨湛法子帰初山偈以送之》

隠元が共に中国から渡った弟子・獨湛に贈ったもの。離れ離れになる弟子への思いがこめられている。



即非如一筆《醒語》

崇福寺の末庵であった「臥遊居」とあることから、即非が長崎にいる時に書かれたものであることがわかる。

特集展示

渡來黄檗僧の書画

2019年

5月22日(水)～7月15日(月祝)

8:30～19:00(最終入場30分前) ※6月17日は休館

〈アクセス〉

路面電車「桜町」電停下車、徒歩5分
路面電車「市民会館」電停下車、徒歩7分
路線バス「桜町公園前」バス停下車、徒歩3分
県営バス(風頭町行)「歴史文化博物館」
バス停下車(1時間毎)
長崎自動車道(長崎芒塚IC)より、諏訪神社方面へ10分

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL.095-818-8366 FAX.095-818-8407